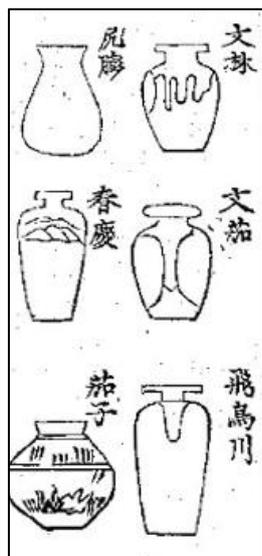


出土した道具2

^{ちやいれ}茶入は、茶道具の一つで、茶を入れる小さな壺です。陶磁器のものを「茶入」、漆のものを「棗」といいます。野々市では三日市A遺跡や御経塚遺跡（デト地区）から発見されています。



▲さまざまな茶入
『和漢三才図会』より

▲上空から見た発掘調査時の中世の集落跡（三日市A遺跡）

^{ちやうす}茶臼は、^{まっちゃ}抹茶を作るために^{ちやば}茶葉を^ひ挽いたもので、茶の湯には欠かせない道具です。^{ながいけ}長池キタノハシ遺跡などから茶臼が出土しており、集落で茶葉の加工がおこなわれていたことがわかります。

そのほか、書をしたためる際にさす水を入れる道具である^{すいてき}水滴や、座敷飾りに欠かせない道具である^{こうろ}香炉も見つかっています。これらを所有したのは、地域を治めた有力な名主層^{みょうしゅ}であると考えられます。